



なごり しゅうう
 颱風の名残の驟雨 あまたふたたび 高浜虚子



← 本園のHP。
 カラー版で拡大して
 ご覧ください。

9日・10日、台風6号接近のため思いがけなく臨時休業となりご迷惑をおかけしました。突然の対応、ありがとうございます。また、休園のお知らせをHPに掲載することができず申し訳ありません。今後も重要な連絡や情報提供等、“はいチーズ”からのメール配信にてお知らせすることになります。園からのメールにご留意いただければと思います。台風6号7号と、国民の生活に深い傷跡を残したようです。皆様のお宅は大丈夫だったでしょうか。この後も台風シーズンは続きます。被害が出ないことを祈ります。

16日(水)の登園風景は、7連休となった博愛っ子もいたせいか、普段と違って親元を離れがたい思いのお子さんもいたようです。しかし、園での活動が始まると、みんないつも通り、園生活を思い思いに楽しんでいました。充電できた分リフレッシュして、また毎日を「にこにこ」「元気」に「やる気満々」で過ごしていきたいと思います。

■ 10日(木) 台風通過後、普段の生活へと復旧作業をする職員たち。周辺部や溝の中等、きれいにお掃除しました。

大きなスイカが1つ動物？に食べられていました。作業後、無事なスイカたちにネットを被せました。美味しそうなスイカがゴロゴロ！



■ 17日(木)、そのスイカを全クラスでいただきました。これまた美味しかったです！ゆり組さんはスイカ割で盛り上がっていました。

(裏面へ) たんぽぽ組さんは色や種に興味津々。観察している間も「早く食べよう！」という声。給食と一緒に美味しくいただきました。休園となった2日分の給食の食材を、食品ロスを出すことなく工夫して、この日のメニューは「フルーゼリー」から「ババロア」に変更。今後もメニューの変更があります。



■ 「博愛の里だより No.16 (2023.07.26付)」でお知らせしていましたが、本園が読売新聞社に取材を受けた際の記事が、7月29日(土)の朝刊に掲載されていたので裏面に載せています。活字が小さく読みにくいとは思いますがご了承ください。取材を受けていたためその時の様子の写真を撮ることができなかったのが残念です。新聞を郵送して下さった牟田口洸介記者の手紙には「子供の安全に対する現場の皆様方のご努力には毎回頭が下がる思いでいっぱい。ただ、人材不足など保育現場における根本の問題は世間的にはまだまだ問題視されているとは言えず、今後も現場の皆様の声を少しでも世間に伝えられるような記事を書いていければと思っています。(一部抜粋)」とありました。謝謝。

安全装置5割 独自策も

防犯ブザー代用 点検済みテープ

福岡県中間市の保育園で2021年7月、当時5歳の男児が送迎バス内に取り残されて熱中症で死亡した事件は29日で2年となる。再発防止のために今春、車内への安全装置の設置が義務化されたが、設置状況は全国で5割にとどまる。部品不足などの要因があるなか、各園は独自の対策で今夏を乗り切ろうとしている。(牟田口洗介)

「何重にも注意」

佐賀市の認定こども園「博愛の里(こども園)」で21日朝、送迎車から降りた園児11人が並んだ。教諭は最後尾の座席まで目視して降りると、その日の乗車名簿を見ながら名前を呼び、全員而降車を確認した。

園は今春、安全装置を注文。エンジンを切って10分以内に最後尾にあるボタンを押さないと警告音が鳴り続けるタイプで、6月設置を見据えた。だが、買い替



九州・山口・沖縄各県の安全装置設置状況(6月末時点)

県	割合
山口	77.0%
福岡	54.5%
佐賀	41.5%
長崎	61.9%
熊本	59.9%
大分	67.4%
宮崎	58.4%
鹿児島	52.7%
沖縄	56.3%
全国	55.1%

※こども家庭庁の調査に基づく

え予定の車に付け替えができない事情も判明し、今夏の取り付けを見送った。代替策が前方と中央の座席付近に設置している防犯ブザー。園児が車内に残された場合に鳴らすものだ。さらに窓をたたいても職員が気付くよう、車が見える位置にある職員室の窓を常

安全装置の代わりに防犯ブザー(手前右)が取り付けられている車内(21日、佐賀市川副町の博愛の里(こども園)で)

地域差大きく

昨年9月に静岡県でも女児が取り残されて死亡したことを受け、国は今年4月、安全装置の設置を義務化。猶予期間を1年とするが、熱中症リスクを踏まえ6月までの設置を呼びかけた。こども家庭庁によると、全国2万1343施設にある送迎車計5万19台のうち、6月末までに設置済みか設置完了予定だったのは55.1%。石川県が最も高く77.9%で、滋賀県が最も低い20.3%だった。九州・山口・沖縄でトップの

山口県は2月に研修会を開き、幼稚園や保育園の担当者らに安全装置の仕様の違いなどを説明し、速やかな発注を促したという。設置の遅れはメーカーなどの事情も。福岡県久留米市の「コックス」は4月以降、約70個を受注したが、コロナ禍での海外工場停止などで部品の半導体が不足し、納期が遅れた。設置はお盆明けの予定で、同社は「取り付けの発注も集中し、順番待ちの状態」とする。ただ、安全装置が万能と

は言えない。埼玉県所沢市の認定こども園で今月、設置済みのバスに男児が取り残された。男児は無事だったが、エンジンを切らなかつたため、装置が作動しなかったという。6月に設置した福岡県行橋市の「もんじゅ幼稚園」は目視後、車内に「降車確認済み」と記した黄色のテープを付け、二重に点検する。稲葉美珠園長(45)は「装置があると安心感はずすが、あくまで職員の作業を補助するしかない」と話した。



ゆり組さん。声援の甲斐あって、見守り中！



その向こうでは、ばら組さんが、かっこよくソーラン節を踊っていましたよ。



黒つぶれしているのが、防犯ブザーのアップと、目視確認している園児と写っています。

これは8月3日の光景。ネタバレはできませんが、少しずつ運動会の準備が進んでいます。

■ 18日(金)、ばら組さんは園外保育で「干潟よか公園」へ。デイキャンプで行けなかった「じゃぶじゃぶ池」。リベンジです。